

「議会開設運動」の始まり(1)

平野 貞夫
元参議院議員

自由民権運動を忘れた日本人

わが国で「議会開設運動」が、政治活動として組織的に始まったのは1874(明治7)年1月17日。板垣退助・副島種臣・後藤象二郎・江藤新平らが「民選議院設立建白書」を、明治政府に提出したことからです。今年で150年という節目となります。明治憲法が發布されたのが、1889(明治22)年2月11日、明治議会の開設が翌年の10月25日で憲法が施行され、134年の歴史になります。

これだけの歴史を経た日本の議会政治が、今もって「政権交代政治」が定着せず、「政治と金」の問題が反社会への習慣から抜け切れないという「日本政治の墮

落」は、世界の七不思議といえます。1874年の「民選議院設立建白書」の提出が、「自由民権運動」の始まりです。自由民権運動が日本の民主政治の原点であり、この発祥の歴史的記念を現代の政党も学術研究者、マスコミが気がつかないことが、日本人の最大の問題だと思えます。

そこでネットTVのデモクラシータイムス「3ジジ放談」(前川喜平・佐高信・平野貞夫)は、1月21日に高知市立自由民権会館の「自由民権運動150年」記念行事として、「自由民権運動の現代的意義」をテーマに発信することになりました。これを機会に、わが国の議会政治史を振り返り国会の現状の病原を究明していきたいと思えます。

議会開設建白書

自由民権運動が始まった歴史の背景

徳川幕府はおよそ264年続き、1867(慶応3)年の大政奉還で幕を閉じます。これは坂本龍馬らがまとめた「船中八策」から出たもので、幕府が政権を調停に奉還する条件を記したものです。その中に「議政所上下ヲ分チ、議事官ハ上公卿ヨリ下陪臣・庶ニ至ル迄、正明純良ノ士ヲ撰挙スヘシ」という項があります。これは天皇が政治を行う「議政所で立法を行う議會を兩院制とし、上院は公卿を議員とし、下院は陪臣・庶民から優れた人物を議員として選挙で選ぶこと」という「議会開設論」でした。

幕府はこの建白書を受け入れて、1867年10月14日に朝廷へ「大政奉還」の願いを出します。朝廷は、翌15日受理し勅許了承しますが、その裏で討幕派が策謀を企てていました。幕府側が大政奉還を願った14日の早朝、天皇の意志とは別に「討幕の密勅」が、討幕派公卿から長州の萩藩士らに出されます。それが王政復古のクーデターとなり、長州藩と薩摩藩の協力で、朝廷は幕府を廃止して王政復古を宣言します。

翌1868(慶応4)年1月27日(旧暦3日)、旧幕府軍と長州・薩摩軍が「鳥羽・伏見」戦争をきっかけに、戊辰戦争に拡大します。「大政奉還」の中にあつた「議会開設論」は煙のように消えます。ところが戦況は明治新政府に有利になりません。その対応に土佐藩や佐賀藩などの議会派を味方に入れることが必要となります。さらに「人心一新」のため新政府として、国家体制の「基本方針」を示し、人々に安心を与えることとなります。

それが明治元年に改元された同年3月14日(旧暦)に、明治天皇から発布された「五箇条の御誓文」です。その第一条には「広く會議ヲ興シ万機公論ニ結スベシ」とありました。土佐藩ら議会派は「大政奉還」の趣旨が生かされるとして新政府に協力、内乱に勝利します。新政府は薩摩・長州・土佐・肥後の四つの藩を中心に、封建国家から近代国家に向けての大改革が始まります。

この大改革は国家の仕組みを根本から変えることで、すか、さまざまな意見や対立がありました。薩摩や長州の討幕派の本音は、天皇を利用して新政府を専制政治体制とし、議会の設置を遅らせようとしています。議

会派は専制化した新政府を強く批判するようになりま
す。韓国に対する対応の「征韓論」などで、「守旧派」
の西郷隆盛だけでなく、「議会議派」の板垣ら参議が辞
職します。これが「明治六年の政変」（1873年）
です。

この政変で、明治維新の功労者が四散し、国内が不
測の事態となります。西郷が下野、薩摩の動きから生
じた士族の反対などの原因を、板垣らは新政府の専制
政治にあると断じます。そしてそれに代わる「公議輿
論の制度」をつくるため、板垣や江藤らは「国会開設
建白書」を提出することになります。翌74（明治7）
年1月17日に「民撰議院設立建白書」として、政府の
左院に提出しました。

建白書でもっとも大切なところは結びにあります。
「斯議院を立る、天下の公論を伸張し、人民の通議權
理を立て、天下の元気を鼓舞し、以つて上下親近し、
君臣相愛し、我帝国を維持し、幸福安全を保護せんこ
とを欲してなり。請幸いに之を撰び玉わんことを」
〔自由党史〕（上）岩波文庫より）

この建白書は、当時欧米諸国が政治の原理としてい
た「天賦人權論」（全ての人間は生まれながらに自由
維新の開国近代化、欧米文化の導入を阻止することが
目的でした。「王政復古」の祭政一致で、「神道国家主
義」による国家を建設しようとすることにありまし
た。1870（明治3）年は、「大政宣布の詔書」で
天皇神格化の政治勢力が形成されます。これが議会開
設・憲法施行の90（明治23）年に、同時に発布された
「教育勅語」の原点でした。

議会開設運動はカルト国家神道との戦い

天皇を神格化して専制政治体制で、日本を大国にし
ようという政治勢力は、「公議輿論政治」を欧米の議
会制度として日本に導入することに強い抵抗を感じて
いました。当然、「天賦人權論」など国家神道と共存
できるものではありません。しかし、明治政府の中に
は冷静に世界を活動するため漸進に西欧文明を受け入
れる考えの人たちもいました。日本中が、文明開化の
大波で封建社会の中で生活を続けてきたのですが、新
しい波の中で生きていくためさまざまな問題を持つて
いました。

「民撰議院設立建白書」が提出され自由民権運動が始
まり、一方で西郷隆盛に代表される「士族の不満」や

かつ平等で、幸福を追求する権利をもつという自然権
思想）に基づくものです。起草は、英国留学から帰国
した古沢滋・小室信夫らです。この時期の
英国議会は、選挙法の成立で腐敗政治が改善され、議
院内閣の機能が評価されていました。「人民の通議權
理を立て」の意味は、議院内閣制や政権交代の意味で
す。

この時期にわが国で西欧の議会政治の知識が、どの
程度知られていたでしょうか。幕末に太平洋で漂流し
た漁師見習の中浜（ジョン）万次郎が、米国の捕鯨船に
救助され奇跡的に帰国でき、欧米のデモクラシー政治
を伝え開国の切っ掛けとなります。龍馬や勝海舟、福
沢諭吉らが議会政治への期待を持つようになります。

明治期となって新政府の内部でも、欧米の憲法や議
会政治を近代国家建設の参考にと、調査、研究を始め
ています。その中から、先進国に官費留学して帰国す
ると、自由民権運動の指導者になって、藩閥専制政治
を続けようとする首脳部を悩ますこととなります。こ
の首脳部というのは、国家神道を確立して天皇を国体
の中心として「神格化」しようとする勢力のことです。
この「国体派」というか「国権派」の出現は、明治

「地方農村の混乱」が、主義思想を超えて民衆運動と
なり一体化するという事件が発端するようになりま
す。自由民権運動も、近代政治思想の論理だけにな
く、民衆の生活困窮問題の解決と連動していきます。
それと天皇神格化のカルト勢力が明治政府の権力主体
となります。それが明治初期の政治対立の特徴でし
た。

この「民権派」と「国権派」の対立は、明治憲法で
天皇の協賛機関として「議院制度」が開設された後も
続いていきます。民権派は「政党内閣による政権交代政
治」を主張し、国権派は「藩閥元老・官僚政治」を継
続することが、政治対立となります。それが大正期と
なり二度にわたる「大正デモクラシー運動」で、英国
型の議院内閣制度を実現しました。それも昭和期にな
って、教育勅語で天皇を利用した軍事カルト政権が、
戦争体制をつくり、亡国の道を歩みました。

戦後の民主主義憲法でも、わが国の議会政治の実態
は、民権派と国権派の対立で動いています。国権派は
山県有朋ら長州元老の思想を継承する自民党の「安倍
派」で、宗教カルトから裏金カルトへの変化は、日本
政治の宿痾です。